

♪2 重唱

シェブレット「ようこそ、カードレル城へ！物好きな旅人さん！私はここの小間使い。嵐の中でこの城に辿り着いたのも何かの縁。しばらくお休みになって下さいまし」

ギイ「結構な歓迎だね…ぼかぁ物好きでもなけりゃ、旅人でもないよ。このカードレル城に用があつて来たんだ」

手紙を見せる

ギイ「この手紙の住所…ここでいいよね？手紙の主、カードレル侯爵が亡くなった、との知らせをもらった。侯爵は僕の大おじ。僕の名前はギイ。」

シェブ「あなたが！」

ギイ「おや、聞いた事が？」

シェブ「ええ、ええ！亡くなった旦那様から何度も聞いた事がありますわ！軍人さんでしたわね！あなたがギイ様！」

ギイにこやかに頷く

シェブ「おっしゃってましたわ！一体誰に似たのか、軍人の癖にチャラチャラしてて遊び回ってて、いっつも借金まみれ！毎週のように借金の申込の手紙がくるけど、毎回その断りの手紙を書くのが大変だ、ってよくおっしゃってました！」

ギイ「キミ一言多いって言われな？」

シェブ「正直者とは言われますわ」

ギイ「あっそ。ま、そんなわけで、大おじが亡くなった今、僕がこの城の相続人だそうで…」

シェブ「ああん！旦那様は、本当は奥様を相続人にするつもりだったんですのよ！でもお城と財産を奥様に残すって遺言書を書いて、最後の署名をする前に、旦那さまは、亡くなっちゃって…だから署名がなくて、遺言書は無効になっちゃったんですの」

ギイ「それで血の繋がってる僕が相続人になったって訳か。」

シェブ「遺言書に署名さえあれば、お城も財産も奥様のものだったのに…署名もないし意味ないからって、奥様、遺言書暖炉で焼いちゃうし…」

ギイ「そういや、僕、その奥様…大おばさんには会ったことないな。どうなさってるんだい？」

シェブ「もうすぐお城を出て行かなくちゃいけないから…荷物をすっかりまとめて…お城にお別れを…」

ギイ「えー？大おばさんって結構な年だろ、そんなお婆ちゃん、すぐ追い出したりしないよ」

シェブ「あ、いえ、それなんですが」

ギイ「ま、いいや。今はとりあえず休ませてくれよ。詳しい話はまたあとで」

シェブ「わかりました。どうぞごゆっくり」

シェブ、退場（上手後）

ギイ「大おじさん…か。借金の断りの手紙しかもらってなかったけど」

(手紙を開いて)

ギイ「(大おじの真似をして)『お前に貸す金なんか、一文もありやせん!』

で、この変な署名!毎回これしか書いてないから文章も、この変な署名も覚えちゃったよ!」

手紙をしげしげと見て

ギイ「しかし、変な署名だな、本当に。変すぎてすっかり覚えちゃって、そらで書けるよ、コレもう」

手紙をしまつて、部屋を眺めて

ギイ「けど、感謝しなきゃな。その大おじさんが死んで、この城が僕に転がり込んできたんだから…古い城だけど、競売!つまり、オークションにかければ少しは金になる!うん!」

♪ギイのアリア～アリスのアリア～二重唱

アリス上手後ろ退場

ギイ「お嬢さん!妖精!天使!女神!待って…」

シェブレット同じ所から登場

シェブ「あらやだ～ギイ様ったら～私がいくら可愛いからって言い過ぎですわ～」

ギイ「何だキミか」

シェブ「明らかにテンション下がらないで頂けます?それに私、名前がありますわ!シェブレットって!」

ギイ「じゃあさシェブレット…(咳払い)ここにいる、その…上品で…その、若い美人って…誰だかわかる…?」

シェブ「奥様ですわ」

ギイ「……………」

シェブ「奥様」

ギイ「あのねえ!奥様って、ぼくの大おばさんだろ!大おじさんが100歳も過ぎた大往生だったのに、大おばさんがそんな若いわけないだろ!!」

シェブ「奥様、20代なんです」

固まる

シェブ「旦那様とは、歳の差夫婦ってやつですわ。でも、本当に愛し合ってたんですよ!」

ギイ「…奥様…マダムの名前は?」

シェブ「アリス様」

ギイ「アリス…美しい名前だ…」

シェブ「性格も、とってもお優しいんですよ!私も、行き倒れてたところを奥様に助けて頂いたんです」

ギイ「行き倒れてた…って?」

シェブ「(何か作業しながら)ああ、私両親を早くに亡くしたんで、売られちゃったんですけど。売られた先がひどいところで、粗相をしたら雪の中に捨てられちゃって。そこを奥様

に拾って頂いたんです」

ギイ「…きみ、能天気そうだけど結構へビーな生い立ちなんだね…」

シェブ「ここでの暮らしはあまりに幸せで嘘みたい…

私時々思うんです。本当はまだブルターニュの雪の中に捨てられてるのが現実で、今の暮らしは、ただの夢なんじゃないかって。」

♪ブルターニュのメロディー

シェブ「奥様は、素晴らしい方です…私はあの方が大好き」

ギイ「……」

シェブ「あの方はまだお若い…亡くなった旦那様を想って泣いてるより、できる事なら新しい恋をして幸せになってほしい。旦那様自身も、それを望んでました…」

少し間があって

シェブ「ギイ様、お願いがあります！奥様と結婚してくださらない？」

ギイ「了解」

シェブ「新しい相続人のあなたが奥様と結婚すれば、全てが今まで通り！！奥様は若いし美人だし、性格も良いし、悪い話じゃ…なんですって？」

ギイ「だから了解」

シェブ「断らないんですか？」

ギイ「これはオペラだ！オペラは、主役のテノールと主役のソプラノは恋するって決まってるのさ。結婚OK OK！」

シェブ「きゃー♡じゃ、奥様呼んできますう！！」

シェブ上手後ろ退場、すぐに突き出されるように上手後ろから、アリス連れて来られる

アリス「何なの何なのシェブレット…」

シェブ「ギイ様、グッドラック」

アリス「…あの、ギイ様…この亡くなった主人の肖像画…頂けませんか？お金は払いますわ。せめて、このお城を出てく時の思い出に…」

ギイ「お金なんか必要ありませんよ、これはあなたのものだ」

アリス、ホッとして笑う

ギイ「何故なら、僕はこれからあなたに結婚を申し込むから」

ギイ「アリス、結婚してほしい。あなたを愛しています」

♪二重唱

アリス下手後ろ退場

ギイ「やあ、大おじさん、振られてしまいましたよ。あなたの奥様は…素晴らしい方だ…」

肖像画を見て

ギイ「何だ？肖像画の下に何か落ちてる…」

手紙広げて

ギイ「これは…大おじさんの遺言書だ！？焼けたって聞いたけど…いや、確かに大おじさんの筆跡だ。日にちも入ってるし、そして何より、遺言書なのに署名がない。あの、変ちくりんな署名が…どういうわけで、こんな所に…いや、それより！これに署名があれば、アリスは財産も城も失わずに済む…」

ペンを出して書き込み、遺書を同じ場所に急いで戻す。

下手退場

上手後ろから

シェブ「奥様…！」

アリス「やめて、それ以上言わないで！」

シェブ「どうして、ギイ様のプロポーズを断ったんです？あの方、ちょっと抜けてるけど、悪い方じゃないです！」

アリス「プロポーズなんて、受けられるわけないでしょう！？」

シェブ「嘘。私わかりますわ！奥様、ギイ様のこと嫌いじゃありませんわ！」

アリス「…わ、私…亡くなった主人を愛してるのよ！なのに、ギイを愛するなんて…そんなの裏切りだわ！」

シェブ「…奥様、私は亡くなった両親を愛してました…いえ、愛しています。今でも、心から。でも、あなたに拾って頂いて…親でもないのにこれほど人を愛せるのか、というくらいあなたを愛しています。

私、それで知ったんです。愛って、増えるんです。」

シェブ「それに…旦那様、亡くなる前に私におっしゃってました。自分が死んだら、奥様がちゃんと次の幸せを見つけるように、背中を押してくれって…」

そっと手を取って

シェブ「奥様は充分、泣きました…大丈夫。新しい恋をなさいませ」

笑って

シェブ「命短し、恋せよ乙女！世間でいま流行ってる恋歌ですわ！」

♪ロシエルの娘たち

アリス「私…どうしたら…」

シェブ「お気持ちのままに、なさいませ」

肖像画の近くに行って

アリス「あなた…私、どうしたら…」

遺言書を見つける

アリス「…！どうして、ここに旦那様の遺言書が…！」

シェブ「えー！私！ちゃんと肖像画の後ろに隠しておいたのにー！！落ちちゃったの

ー！？」

アリス「……シェブレット…！！この遺言書は暖炉で燃やしたはずよ！」

シェブ「燃えちゃう前に隙をついて、隠しておいたんですう」

アリス「署名のない遺言書は無効なの！あっても意味ないでしょ！」

シェブ「うーん、でもほら、取っておいたら、もしかしたら、奇跡が起きて、神様が署名して下さるかも…なんて…」

アリス「あのねえ、奇跡なんて…起きるわけないから、奇跡なの」

言いながら遺言書を開く

アリス「(息を吞んで) き、奇跡だわ……！」

シェブ、駆け寄る

アリス「あの人の…亡くなった旦那様の署名よ！あの変ちくりんで、妙ちきりんな署名！！何で…」

2人で顔見合わせたり、手紙を見てる

下手から口笛吹きながらギイ登場

ギイ「やあ、お2人さん。何か…(激しく棒読み) ややっ！これはもしかして、大おじさんの遺言書！？しかも、なんだあ！大おじさんの署名がある！妻アリスにこの城を全て相続させるって書いてある！」

アリス「ギ、ギイ、あなた」

帰り支度を始める

ギイ「なあんだ、それじゃあこの城は結局アリスのものじゃないか！あーあ、じゃあ僕は出てくとするか！」

ギイ下手前側から出ようとする

アリス「待って！！」

ギイ「何？」

アリス「この遺言書…もしかして…あなた…」

口笛吹いて目を逸らす、とか外人の白々しいジェスチャー的なのとかしてから、

ギイ「アリス、僕はここの相続人になれないなら、また軍人に戻らなきゃいけないんだ。もう出てかなきゃ。じゃあ」

アリス「待って！」

アリス「……愛してるわ…」

ギイ、立ち止まって

アリス「愛してるわ、ギイ…愛してるわ…！！」

2人、抱き合う

アリス「軍隊の任務が終わったら、戻ってきて…！必ず、ここに…！」

♪フィナーレ